

第 305 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 平成 26 年 10 月 14 日 (火) 11:50~13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] K-mix WONDER ' 69
[放送日時] 平成 26 年 10 月 11 日 (土) 11:00~12:55
[出演者] 久保ひとみ、ユーコ・タケダ
4. 出席者 [委員] 委員長 出口泰規 委員 木宮敬信
委員 小野晃司 委員 山本りさ
[会社] 代表取締役社長 祐嶋繁一
常務取締役放送事業本部長 上野豊
放送事業本部副本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部副部長 寺田和史

5. 事務局報告

- AM 局の FM 波活用計画の現状について。
- V-LOW マルチメディア放送計画の現状について。
- 上期中間決算について。

6. 番組審議

[対象番組] K-mix WONDER ' 69
[放送日時] 平成 26 年 10 月 11 日 (土) 11:00~12:55
[出演者] 久保ひとみ、ユーコ・タケダ
[番組内容] 片や、「静岡の顔」として磐石の人気を誇り、母としての視点も持つ久保。片や、世界中を旅し、英語・韓国語も操る“独身貴族”ユーコ・タケダ。一見正反対のこの 2 人、実は 1969 年生まれの「同級生」。そんな 2 人が仲良く、時には激論を交わしてお送りする情報バラエティ。アラフォー世代ど真ん中のライブ・プログラ。

[聴取・合評での主な意見]

小野委員

2 人とも早口だが、聴き取りやすい。また、ワン・トピックをよくここまで引っ張って話ができるものだと思う。リスナーが思っても口にしないようなことをはっきりと口にするのもよい。曜日や時間帯によくあったトーク内容だ。ただ、2 人ともトーンが高く、時折どちらがしゃべっているのかがわからなくなる。役回りが途中で変わるからだと思うし、キャラクターがかぶるからだと思う。2 人の役回りを明確にした方がよい。ユーコさんの国際感覚をもっと取り入れた方が、2 人の

違いが出るのではないか。

山本委員

2人とも圧倒されるほど元気で、伸び伸びして、おもしろい。2人のトークがかぶることがあってもいいと思う。身近なニュースを取り上げてしゃべっているが、しっかりと考えて話をしていると思う。ユーコさんの映画についてのトークは、早口だが聴き取れる。本当に映画が好きなのがよくわかる。そこでの久保さんの相槌もいい。逆に、リスナーのメールを紹介するところは、ゆったりとしていて番組内でのテンポの変化があってよい。

木宮委員

全体的には聴き流せる番組だ。映画の紹介のコーナーは、ユーコさんが話したい事がたくさんあるから、早口になっていて落ち着きがない。映画が好きだという思いは伝わるが、映画の良さを伝えるためには、情報量を抑える必要もある。2人が興味のあるニュースについて伝えるコーナーは、時間が長い。BGMもアップテンポのため。忙しい感じに聴こえる。BGMはもっと落ち着いたものにすべきだ。ノーベル物理学賞での話題では、中村教授の立場からのみ伝えられ、それに同調するだけで、企業側の立場に立ったコメントがなかった。週刊誌的な切り口だ。教授と企業の両方の立場から伝える必要がある。また、リスナーのメールへの対応は、リスナーを叱る立場と擁護する立場という2人の違いを出しやすいものであったにもかかわらず、中途半端なものになってしまっていた。

出口委員長

前回、この番組を審議した時に、「喧々諤々していない」という意見があったが、今回もそう感じる。久保さんとユーコさんのどちらかが自分の考えたこと、感じたことを一方的にしゃべって、もう片方がそれを聴いている感じで、意見の交流がない。2人で出演している意味があまりない。個性の違いも出ていない。声質は確かに違うが、ラジオを聴いているだけではそれほどその違いが分かるものでもない。また、片方がAと言ったら、もう片方がBというくらいでないと、個性の違いは判らない。

会社サイド

前回（第304回）では、パーソナリティ2人の立ち位置やこのパーソナリティでなければいけないという必然性の少なさなどについてご意見をいただきました。いただいたご意見は番組作りの参考とさせていただきます。今回（第305回）ご指摘いただきました点につきましても、今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 平成 26 年 11 月 11 (火) 11:50~13:30 を予定

以上

番組審議会委員長

出 口 泰 規